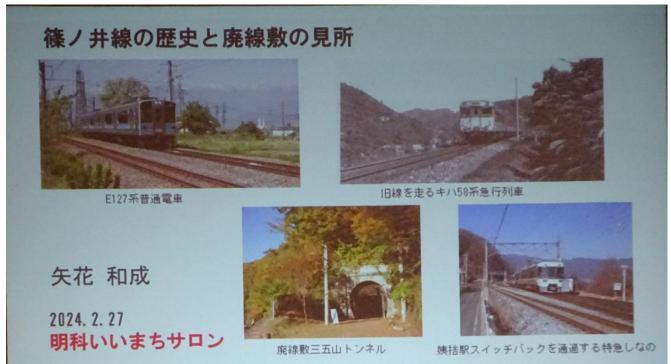
## 第 118 回目 明科いいまちサロン ~篠ノ井線の歴史と廃線敷の見所~

令和 6年 2月 27日(火) 13:30~15:30

於 : 明科公民館講堂

今月度の明科いいまちサロンは、昭和63年に旧国鉄から無償譲渡された旧篠ノ井線(明科西条間)の歴史について、元高校教諭 矢花和成氏を講師に迎え、建設の歴史背景から無償譲渡された後の廃線敷管理また、廃線敷のウォーキング時見所等ついて講義を受けた。参加者は、38名程の方がみえた。





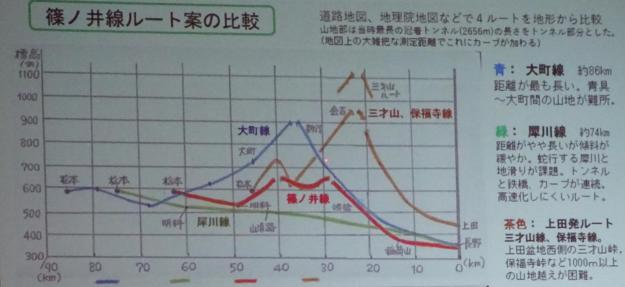
開会の挨拶 横田副代表

講師 矢花和成氏



熱心に聞き入る参加者

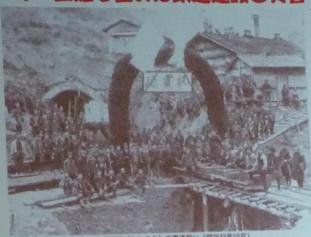




赤: 現篠ノ井線ルート 約63km 急傾斜は姨捨付近と潮沢の2区間だけで、山腹を徐々に迂回するカーブの連続により、蒸気機関車列車の登坂限界である 25/1000勾配 を何とか克服することが可能となった。 3つの平坦部をうまく連結したルートで最適である。



## 4. 困難を極めた鉄道建設と災害



白坂韓選 (トンネル) の貫通祝い (明治33年10月)

明科~西条間は5つのトンネルを穿ち、山腹を削り、谷を埋めて 大築堤を造るなど難工事の連続で、多くの犠牲者がでた。明科の 龍門寺にその弔慰碑がある。開通当時日本最長であった冠着トン ネル(2656m)も難工事で、その犠牲者の供養碑が付近の寺にある。

坂隧道の 貫通祝い。 右下に煉 瓦を積ん だトロッコ 明治33年 『うるわしき ふるさと東川 手』(2005)

『目でみる明科 史(1977)より』



上:淀が沢の地滑り災害の復旧工事。高 さ約20mの大築堤を再構築する難工事。 けやきの森の西側



線路上に崩落した土砂に乗り上げ VII-図2 転覆した汽車 (大正13年 下花見付近)



線』柏企画(2017) より。一、右下



『鉄道ジャーナル 1981年12月号』

潮沢の旧線を走るキハ58型ディーゼル急行(上) 麻績付近を走る3階建て165系電車急行。(右上)

## 篠ノ井線を走ったスター列車

- ①急行「赤倉」 名古屋 長野 新潟を9時間で結んだ 直通急行。キハ58型気動車。車両 新ニイ(新潟)
- ②急行「ちくま」 長野-名古屋-大阪を8時間で結ん だ急行。キハ58,57型気動車。車両 長ナノ(長野)
- ③3階建て急行「天竜・きそ1号」165系電車。長野と 上諏訪・天竜峡・中津川。4両×3編成併結。長ナノ ④多くの山男を運んだ新宿23:55発夜行普通列車長野 行。旧型客車10両。長野発18:20夜行。東イイ(飯田町)





お礼の挨拶 川崎さん



閉会の挨拶 浅見代表